

【経営の概要】

キクの主要品種である「神馬」は切花品質が優れ、県内での生産量が最も多いが、低温期の開花遅延により計画生産しにくいこと等が課題となっている。

また、重油価格の高騰や輸入切花の増加による単価の低下等が農家経営に大きな影響を及ぼしている。

そこで、大分県農林水産研究センター花き研究所では、平成15年度に「神馬」の選抜系統の中から、低温管理しても開花が早く、切花品質には大きな差がない優良系統を選定した。この低温開花性品種「神馬(J03-11)」の現地への早急な普及を図っている。

第1表 キクの低温開花性品種「神馬(J03-11)」の普及面積の推移(ha)

品 種 名	H15	H16	H17	H18	H19	H22(目標)
神 馬(J03-11)	0	0.1	1	6	8	10
そ の 他 品 種	80	89	88	83	82	82
合 計	80	89	89	89	91	92

【対策の内容】

○キクの低温開花性品種の導入による重油使用量の削減

ハウスの温度管理を消灯～出荷までの期間（約55日間）、低温開花性品種「神馬(J03-11)」では夜温を12℃で管理する。その他の期間の温度管理や施肥等の栽培管理は、従来の「神馬」に準ずる。

管理上の注意点としては、10～12月出荷作型において、開花期が早まり、草丈がやや低くなる傾向があるため、消灯時の草丈をやや長めに確保する必要がある。

第2表 キクの低温開花性品種「神馬(J03-11)」及びその他品種の温度管理方法

生 育 ステージ	時 間 帯	低温開花性 「神 馬 (J03-11)」	そ の 他 品 種
栄養成長期	18:00～ 2:00	13℃	13℃
	2:00～ 7:00	8℃	8℃
	7:00～18:00	20℃	20℃
消灯～出荷	18:00～ 7:00	12℃	17℃
	7:00～18:00	20℃	20℃



手前の開花しているものが低温開花性品種「神馬(J03-11)」

【対策の実践効果】

低温開花性品種「神馬(J03-11)」を導入することにより、A重油の使用量が導入前は12kL/10aだったものが、9kL/10a（75%）に削減できた。

また、従来の品種を更新するだけなので、対策に係る追加費用はかからず、収量についても増減はみられない。

第3表 キクの低温開花性品種「神馬」の導入による燃料の削減効果

	取組前 (A)	取組後 (B)	B/A
燃料の種類と使用量	A重油：12kL/10a	A重油：9kL/10a	75%
加温に係る燃料経費①	1,440千円/10a	1,080千円/10a	—
対策に係る追加費用②	—	0円/10a	—
①+②	1,440千円/10a	1,080千円/10a	75%

※A重油の単価は@120/Lで換算

【今後の課題】

重油価格の上昇が続く中、この品種の導入だけでなく、施設の密閉度向上や被覆資材の多層化、重油代替ボイラーの検討等、総合的に取り組む必要がある。

【問い合わせ先】

大分県農林水産部研究普及課 普及班 電話：097-506-3572